

逗子教育ビジョン

～「つながりに気づき つながりを築く」人づくり～

1. 逗子教育ビジョン策定の趣旨

現代社会では数多くの問題が顕在化してきています。たとえば、個人主義的で効率的な生き方が強調され、人と人との間の競争が激化する中で、人と人の関係性が希薄化し、大人・子どもを問わず、無関心や自分勝手、いじめや差別、心の問題や各種の問題行動など、身近なところに数多くの問題が浮びあがってきています。また、国際化やグローバル化に示されるように急激に社会が変化する中で、国内外を問わず、社会的格差や環境破壊などの地球的諸問題が引き起こされ、地域と世界との関係を問い直しそれらの問題解決をめざすことなしに、平和で持続可能な未来社会を描くことは難しい状況が生み出されてきています。

このような状況の中、教育が果たすべき役割はより大きなものになってきています。それは教育が、人づくりそして社会づくりへの役割を、これまでも増して担っていくことが期待されているからです。そして、その時に求められるのは、これまでの教育の良いところを踏まえつつ、未来に向けてより創造的に、これからの教育のあり方を示していくことです。

しかし、これまで逗子市教育委員会は、逗子の教育のあり方を示す基本指針とも言える教育ビジョンを策定してきませんでした。改めて現代社会の状況を踏まえ、逗子市教育委員会は、逗子の一人一人の住民が、生きる力を育み、現代的諸問題を解決し、都市宣言に謳われた「青い海と みどり豊かな 平和都市」を築いていくことに資する教育を描き出すために、逗子教育ビジョンを新たに策定することにしました。

2. 逗子教育ビジョンの策定過程・他の計画との関係・期間

* 策定過程

逗子教育ビジョンは、逗子市教育委員会教育委員5名が、市民や教育現場での声に耳を傾ける中で、約1年間の協議のもと、2014年9月末にその基本となる教育ビジョン案を作成し、その後2014年10月から12月にかけて、市長、副市長、社会教育委員、教育行政担当部長課長と意見交換を行い、また2015年1月にはその案を公表し、2015年2月に完成させたものです。

* 逗子の他の計画との関連

逗子市教育委員会は、この教育ビジョンを「逗子市総合計画」及び「共に学び、共に育つ、共育(きょういく)のまち推進プラン」(基幹計画)を補完するものとして位置づけています。

また、「学校教育総合プラン」、「社会教育推進プラン」、「生涯学習活動推進プラン」、「文化振興基本計画」、「スポーツ推進計画」などの教育委員会に関連する計画の基本ビジョンとして位置づけることを想定しています。

* 見ずえる期間

逗子市の総合計画との整合を図り、概ね20年間を見ずえることとしています。

しかし、期間には縛られず、必要に応じてより良いものを創りだしていくことを、これからの教育委員会に期待しています。

3. 返子教育ビジョンの基本理念

「つながりに気づき、つながりを築く」人づくり

人は、つながりの中で生きています。

このつながりには、他者とのつながり、自然とのつながり、社会とのつながり、
そして歴史とのつながりが含まれます。

つまり、人は、

親・家族・友人など他者とのつながりの中を生き、

身体や精神・遺伝・発達などの内的自然や

人間をとりまく大気・大地などの外的自然とのつながりの中を生き、

政治・経済・文化などの社会とのつながりの中を生き、

過去・現在・未来といった歴史とのつながりの中を生きています。

そして人はこれらのつながりの中で、

愛されること、愛すること、感じること、感謝すること、知ること、考えること、

協働すること、問題を解決すること、想像することなどを学んでいきます。

教育がよりよい学びづくりそして人づくりのための働きかけであるなら、

人がこれらのつながりに気づき、これらのつながりを築いていくことは、

教育の基軸に据えられるべきことと考えます。

したがって「つながりに気づき、つながりを築く」人づくりを基軸に据えた教育を、

返子から創り出していくことを、返子の教育ビジョンとします。

4. 逗子の教育の目標

生涯を通じた「つながりに気づき つながりを築く」人づくりに向けて、人の一生を「乳幼児期」「児童・青年期」「成人期」「円熟期」という4つの段階に分け、「つながり」の視点から、それぞれ段階での学びのあり様を整理し、また「家庭教育」「学校教育」「社会教育」「市民協働学習*」という4つの場での、学びの基本的なあり様を以下に描き出しました。逗子の教育は、以下のような学びを創り出すことを目標とします。

(*市民協働学習とは、市民が多様な場で協働的かつ自発的につくり出す学習のことをさしています。)

基本理念：「つながりに気づき つながりを築く」人づくり

<4つの発達段階での学び>

***乳幼児期：他者・自然との基礎的なつながりを培う**

親に愛され、他者と遊び、自然に触れ身体・感覚を開くことなどを通して、信頼感や感性の発達など心身の成長と生活の基礎を培う。

***児童・青年期：他者・自然・社会とのつながりの中で自分らしさを探究する**

自然の中で感じ、仲間集団の中で知り・考え・協働し、社会の中で自らの役割を模索し、歴史の中で未来を想像することなどを通して、自分らしさを探究する。

***成人期：他者・自然・社会・歴史とのつながりの中で協働する**

自然を生き、社会を生き、問題を解決し、歴史を生き、子ども・他者を育てるために、協働する。

***円熟期：他者・自然・社会・歴史とのつながりを文化として残す**

4つのつながりを文化として、次世代へ伝え、残す。



<家庭教育・学校教育・社会教育・市民協働学習の場での学び>

***家庭教育：日常生活の中での4つのつながりへの基礎的な学び**

日常生活の中での、親子、兄弟・姉妹、祖父母などとの関係を通して、生きる基礎を学ぶ。

***学校教育：集団の中での4つのつながりへの系統的継続的な学び**

集団の中での協働関係を通して、系統的な知識・技能・態度などを継続的に学ぶ。

***社会教育：社会的問題の解決に向けた4つのつながりへの実践的な学び**

身近な地域問題や現代的な地球規模の問題に即して、それらの関係やそれらの解決に向けての課題や方策を実践的に学ぶ。

***市民協働学習：市民協働による4つのつながりへの自発的な学び**

「生活づくり」「問題解決」「文化振興」「スポーツ推進」など市民や地域のニーズに即した多様なテーマを、協働的かつ自発的に学ぶ。

